授業科目名	中東と国際社会	単位数	2
担当教員名	佐々木　伸	担当形態	単独
実務内容 （実務家教員の場合）			

「学位授与の方針」との関係
共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係の専門的知識を生かし、狭い専門領域を超えて統合しようとする意志を持つこと。

授業の到達目標及びテーマ
（１）世界のエネルギー資源の宝庫である中東でなぜ紛争が多発し、不安定な状況が続くのか、その原因や構造を探求する。
（２）紛争の背景である歴史、政治、宗教、民族、文化などの理解を深める。
（３）中東への大国の影響力行使について考察し、平和と安定への道を展望する。
（４）日本と中東との関わり、並びに日本の国際貢献と共生の在り方について考える。

授業の概要
世界の「紛争の巣」ともいえる中東情勢について、列強支配の歴史、政治、ユダヤ、キリスト、イスラムという宗教を含め、民族、文化、言語などの基本を多角的なアプローチで把握、分析。紛争の根本的な要因であるパレスチナ紛争や、イスラム過激派の興亡、ペルシャ湾の緊張など対立と分断の現況を研究、平和実現の展望を探り、中東と世界、そして日本との共生の可能性を考察する。

授業計画
第１回：中東を知る―中東の基礎知識（3 大宗教、民族、言語、社会、文化など）
第２回：パレスチナ紛争の本質と歴史的背景―アラブとイスラエルの対立
第３回：中東紛争の拡大―植民地主義と民族主義
第４回：和平への動きと米国の調停―エジプトの単独和平、オスロ合意
第５回：トランプ米前政権によるエルサレムへの米大使館移転、新和平提案
第６回：イスラム急進主義とイラン革命
第７回：アルカイダと 9・11―国際テロの背景
第８回：アフガニスタン戦争と米国のイラク侵攻
第９回：湾岸の諸戦争―イラン・イラク戦争、湾岸戦争
第１０回：イランと米国の対立　ペルシャ湾の緊張
第１１回：アラブの春の衝撃
第１２回：シリア内戦とロシアの介入
第１３回：イスラム国（ＩＳ）の興亡
第１４回：紛争の処方箋と和平への展望
第１５回：中東と日本、国際貢献と共生の道
定期試験

スクーリングでの学修内容 主に授業計画に記載したテーマについて横断的に学ぶ。テキストについては、教科書とは別にダウンロード教材やレジュメを事前配布し、それに基づいて講義し、質疑応答することで、授業の理解を深め、問題意識を高める。スクーリング前に教材を必ず読んでくること。
教科書 （１）佐々木　伸　ダウンロード教科書 （２）鹿島 正裕（２０１３）『増補新版　中東政治入門　～アラブの春とその背景』第三書館
参考文献 （１）奈良本　英佑（２０１７）『１４歳からのパレスチナ』合同出版 （２）池内　恵（２０１８）『シーア派とスンニ派』新潮選書 （３）末近　浩太（２０２０）『中東政治入門』ちくま新書 （４）国枝　昌樹（２０１５）『イスラム国の正体』朝日新聞出版
学生に対する評価 スクーリング評価（２５％)、レポート評価（２５％)、科目修得試験（５０％）を総合して評価する。